



福島で積み重ねた15年が、選ばれ続ける国際拠点へ



IAEA理事国大使ら 3年連続の視察

放射線医学・原子力災害 医療の知見が、 福島から世界へ共有

福島県立医科大学は、2026年1月20日、国際原子力機関(IAEA)理事国大使招聘事業の一環として、同機関理事国を務める5カ国の大使を迎え、2024年から3年連続となる本学の視察を実施しました。

今回来学されたのは、海部篤大使(外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使)をはじめ、フィリピン、チリ、ガーナ、タイの計5カ国の大使です。

本学とIAEAは、原子力災害医療対応への報告書作成から、多岐にわたる放射線医学教育までの共同プロジェクトを通じて、協力

関係を継続的に深化させています。

今回の視察は、震災後の本学における活動や日本における原子力の平和的利用、とりわけ医療分野における放射線利用の取り組みについて理解を深めていただくことを目的に行われました。

歓迎セレモニーには、本学から竹之下誠一理事長兼学長、山下俊一副学長、安村誠司放射線医学県民健康管理センター長、鈴木義行放射線腫瘍学講座主任教授らが出席しました。

ワークショップでは、原発事故後の緊急被災く医療対応、県民健康調査事業、アスタチン

を用いたがん治療薬開発、IAEAの「Rays of Hope」における日本アンカーセンターの活動などが紹介され、活発な意見交換が行われました。

本学は、原子力災害の実務経験に基づく知見を有する国際的中核拠点として高く評価されており、今回の視察を通じ、IAEAとの連携強化と国際協力のさらなる発展が期待されます。

詳細はこちらから
ご覧ください



AWARDS CEREMONY

本学教員が福島医学会各賞を受賞

令和7年(2025)度福島医学会表彰授与式及び受賞者の記念講演会を2026年1月22日に開催しました。

優れた医学研究を行った研究者に贈られる本年度の福島医学会賞を、医学部循環器内科学講座/地域先端循環器病治療学講座の横川哲朗講師が受賞しました。

また、福島医学会学術奨励賞を同呼吸器

内科学講座鈴木康仁講師、南相馬市立総合病院循環器科科長/同循環器内科学講座富田湧介博士研究員、同リウマチ膠原病内科学講座吉田周平助教の3名が受賞しました。

表彰式は本学で行われ、竹之下誠一理事長兼学長が福島医学会各賞受賞者一人一人に表彰状を手渡し、学術研究集会担当幹事を務める医学部呼吸器外科学講座鈴木弘行主任



教授が陪席しました。

また、表彰式の後に、受賞者による受賞記念講演会が開かれました。



未来へつなぐ「福島の実態」世界の公衆衛生リーダーが見た、震災15年のレジリエンス

ハーバードT.H. Chan公衆衛生大学院の一行が、2026年1月5日～23日にかけて、「ウィンター・セッション 福島フィールドトリップ」として福島県内を訪問しました。

昨年度に続き2回目となる今回は、「放射線防護と環境保健」「防災と保健医療制度のレジリエンス」「地域復興と社会的影響」の3つのテーマに分かれ、専門的知見を踏まえた「より良い復興」の在り方について検討しました。

一行は、本学を表敬訪問し、今後の教育・研究連携の深化に向けた意見交換を行いました。その後、震災から15年を迎えようとする被災地の復興状況や、地域医療の最前線を視察しました。

また、本学で成果報告会も開催され、熱心なプレゼンテーションが行われるとともに、福島が抱える課題とその未来について、活発で深い議論

論が交わされました。

本訪問の受け入れがもたらす意義として、第一に、将来の公衆衛生分野を担うリーダーたちが福島の実態を正しく理解し、科学的根拠に基づく情報を世界に向けて発信する「理解者」となることで、国際的な風評の払拭に寄与する点が挙げられます。

第二に、世界トップクラスの学生との対話は、本学の学生や教職員に国際的な刺激を与え、福島の実験を普遍的な知見として体系化するうえでの重要な契機となります。

本学は今後も、福島の実験と知見を世界と共有しながら、地域社会の発展に寄与する学びと交流の場を提供してまいります。こうした取組を通じて、本学の教職員や学生が世界的な視点から福島を理解し、地域に根差した研究や課題解決への取組が一層進むことが期待されます。



表敬訪問はこちらから



報告会はこちらから



会津で出会った、統合医療というもう一つの答え

会津医療センターでも、1月13日にハーバードT.H. Chan公衆衛生大学院の視察を受けられました。

当センターでは、会津地域の特色ある医療のひとつとして、伝統医学を現代西洋医学と高い次元で融合させ、全国的にも稀な「漢方（湯液）と鍼灸の両輪による統合診療」を実践しています。

今回は、1500年の時を重ね、日本人の体質や疾病観に合わせて発展してきた漢方・鍼灸医学の臨床現場を紹介しました。

全国屈指の生薬数を誇る漢方薬局での調剤や、医師の判断のもと現代医学と併用される鍼灸診療を通じ、患者一人ひとりに応じた多角的な医療の在り方を共有。

学生との対話を通じて、環境・文化・医療が結びつく会津ならではの公衆衛生の価値を改めて確認しました。

生薬の地産地消や人材育成を含む地域創生の取組など、次世代の公衆衛生リーダーが新たな医療モデルを学ぶ貴重な機会となりました。



INFORMATION

2026.3.12 開催 世界と共有する「福島15年」、そして未来。

2026年3月12日、福島県立医科大学は「2026年福島県立医科大学『県民健康調査』国際シンポジウム」を開催します。

本シンポジウムは、「これまでの15年とこれから一東日本大震災を経て」をテーマに、震災および原子力災害後の健康影響に関する知見の蓄積と課題を振り返るとともに、被災地の未来に向けた取組について国内外

の専門家と共有・議論することを目的としています。

当日は、福島県立医科大学関係者による報告に加え、海外有識者を招いた基調講演やセッションを通じて、県民健康調査の意義と今後の展望を多角的に考察します。

医療・保健・行政・教育など多様な分野の関係者が一堂に会し、これまでの歩みを検証

するとともに、次の世代につなぐ知の共有の場となることを期待されます。

本シンポジウムは、一般の方を含めどなたでも参加可能です。会場参加に加え、Zoomによるオンライン視聴も用意しており、事前申込制となります。詳細および申込方法は、公式Webサイトをご確認ください。

開催概要

会場 本学福島駅前キャンパス

日時 2026年3月12日(木)
12:20～18:10(開場・受付開始11:50)

形式 会場参加(先着75名程度)+Zoom配信

備考 同時通訳あり/事前申込制
※定員に達した場合はZoom視聴をご案内

詳細はこちらから
ご覧ください

